

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	現代社会・人間学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまへ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教養と課題発見能力 人間的・社会的に豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(※KUGS1.5に対応) 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できることと、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(※KUGS1.2.5に対応) 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文書、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(※KUGS3に対応) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(※KUGS4に対応) 	<p>現代社会・人間学プログラムでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文科学の成果を学び、専門とする現代社会・人間学プログラムの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文科学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような現代社会・人間学プログラムの学習成果を上げた者とす。</p>

学類・プログラムのOP(カリキュラム編成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のOP】</p> <p>DP1にかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学士課程4年間を通して、KUGSに対応したGS科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(※DP1) 2. 1年次より人間社会学域(GS科目)で人文学基礎科目(基礎)を履修し、前期で大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文学、社会科学の基本的問題や方法論を、後期では人文学の基礎研究内容、研究方法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修得し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(※DP1.2) 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(※DP4) 4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実験科目とに大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門知識の習得に加え、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(※DP3.4) 5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通して卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から2年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所収の原稿に加えて批評・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。(プログラムのOP) 1年次には、現代社会・人間学プログラムを構成する4つの専門分野における基礎科目である「社会学概論A・B」や「社会学概論1・2」、「地理学概論A・B」、「文化人類学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基礎的知識や基礎技術を習得するための「人間学基礎演習A・B」や「社会学基礎1・2」、「地域調査入門演習1・2」、「文化人類学演習A・B」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するためにプログラム共通科目である「現代社会・人間学実習1～IV」(専門分野によってはV、VI)を履修し、自らの関心に合った専門分野のより実践的な研究方法を学ぶ。4年次には、「卒業論文演習A～D」での指導を受け、自分の研究を卒業論文にまとめ、これに加え、4年間を通して人文社会科学の諸領域の基礎知識や最新トピックを講義および実習を通して学び、より総合的・学際的な視野を身につける。 	<p>現代社会・人間学プログラムは自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。 既存の資料や文献の批判的検討を通じて、独自の分析視点を構築することができる。 現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献レビューなど適切な分析をおこなうことができる。 研究対象に応じて、質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。 研究成果について、口頭や文章などで、論理的に分かりやすく報告することができる。 学問分野の知の集積に比べ、事業に対する多様な考え方をもち、人文学に開かれた複眼的な見方を両立する。</p>

プログラムのカリキュラム									
番 号 目	科 目 名	履 修 の 学 年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4			
41162	社会学概論1	1~4			*				◎
41163	社会学概論2	1~4				*			◎
41164	社会調査基礎1	2~4	*						◎
41165	社会調査基礎2	2~4		*					◎
41166	基礎社会統計学1	2~4	*				○	○	◎
41167	基礎社会統計学2	2~4		*			○	○	◎
41168	発展社会統計学1	2~4			*		○	○	◎
41169	発展社会統計学2	2~4				*	○	○	◎
41170	社会学調査法1	2~4	*				○	○	◎
41171	社会学調査法2	2~4		*			○	○	◎
41137	経験社会学1	2~4			*				○
41138	経験社会学2	2~4				*			○
41110	社会学理論	2~4			*				○
41158	現代社会学D I	2~4	*						○
41159	現代社会学D II	2~4		*					○
41156	現代社会学C I	2~4			*				○
41157	現代社会学C II	2~4				*			○
41152	現代社会学A I	2~4	*						○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	現代社会・人間学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすべての能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教養と課題発見能力 社会的応用性を備えた専門性 人間性と社会性に基づく豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(※KUGS1.5に対応) <p>各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解など多岐にわたる調査の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(※KUGS1.2.5に対応)</p> <ol style="list-style-type: none"> 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文書、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(※KUGS3に対応) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(※KUGS4に対応) 	<p>現代社会・人間学プログラムでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文学の成果を学び、専門とする現代社会・人間学プログラムの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような現代社会・人間学プログラムの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのOP(カリキュラム編成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のOP】</p> <p>DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学士課程4年間を通して、KUGSに対応したGS科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(※DP1) 2. 1年次より人間社会学域(GS科目)と人文学基礎科目を履修し、教養で培った文学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概説、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文学、社会科学の基本的問題や方法を、後ででは人文学の基礎研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学習し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(※DP1.2) 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえて2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(※DP4) 4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実務科目とに分けられるが、いずれのプログラムの講義・演習でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を奨励するとともに双方向型の授業を進め、専門知識の理解に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っていく。(※DP3.4) 5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通して卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所収の原稿に加えて批評・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。 <p>【プログラムのOP】</p> <p>1年次には、現代社会・人間学プログラムを構成する4つの専門分野における基礎科目である「哲学概論A・B」や「社会学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基礎的な基礎知識を習得するための「人間学基礎演習A・B」や「社会学基礎1・2」、「地域調査入門演習1・2」、「文化人類学演習A・B」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するためにプログラム共通科目である「現代社会・人間学実習1～4」(専門分野によってはV,VI)を履修し、自らの関心に合った専門分野のより実践的な研究方法を学ぶ。4年次には、「卒業論文演習A～D」での指導を受け、自分の研究を卒業論文にまとめ、これに加え、4年間を通して人文学社会科学の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通して学び、より総合的・学際的な視野を身に付ける。</p>	<p>現代社会・人間学プログラムは、自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を得ることができる。既得の資料や文献の批判的検討を通して、独自の分析視点を構築することができる。現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献調査など適切な分析を自ら行うことができる。研究対象に応じて、質的・計量的な分析方法を選択し、適切な分析をおこなうことができる。研究成果について、口頭・文章などで、論理的に分かりやすく報告することができる。専門分野の知識の集積に加え、事業に対する多様な考え方をもち、人文学に開かれた複眼的な見方を養育する。</p>

プログラムのカリキュラム									
番 号	科 目 名	履 修 の 学 生	学 年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4		
41237	自然地理学特講講義1	自然地理学が取り扱うさまざまな領域について、基礎的な知識を導入しつつ考察を深める。	2~4			*		○	
41238	自然地理学特講講義2	自然地理学が取り扱うさまざまな領域について、基礎的な知識を導入しつつ考察を深める。	2~4			*		○	
41239	地誌学特講講義1	現代社会における自然と社会の関係を踏まえた人文地理学の基礎的な理論と概念を理解できるようにすることを目標とする。	2~4	*				○	
41240	地誌学特講講義2	現代社会における自然と社会の関係を踏まえた人文地理学の応用的な理論と概念を理解できるようにすることを目標とする。	2~4		*			○	
41273	人文地理学演習1	人文地理学における学術論文の視点・分析視角、研究成果を習得・理解するとともに、人文地理学における地域調査手法を学ぶ。加えて、学生は担当授業の発表を通じてプレゼンテーション能力の向上を目指す。	2~4	*				○	◎
41274	人文地理学演習2	人文地理学における学術論文の視点・分析視角、研究成果を習得・理解するとともに、人文地理学における地域調査手法を学ぶ。加えて、学生は担当授業の発表を通じてプレゼンテーション能力の向上を目指す。	2~4		*			○	◎
41247	自然地理学演習1	自然地理学分野における学術論文の読解能力とプレゼンテーションのスキルを身につける。	2~4			*		○	◎
41248	自然地理学演習2	自然地理学分野における学術論文の読解能力とプレゼンテーションのスキルを身につける。	2~4				*	○	◎
41249	地誌学演習1	現代における地理学的諸問題に対する理解を深めるとともに、英語でプレゼンテーション及び討論を通じて国際的なコミュニケーション力を高める。	2~4			*		○	◎
41250	地誌学演習2	現代における地理学的諸問題に対する理解を深めるとともに、英語でプレゼンテーション及び討論を通じて国際的なコミュニケーション力を高める。	2~4				*	○	◎
41275	地域調査入門演習1	地域調査の基礎的な理論と方法を身につけること。具体的には①調査対象を決定すること、②文献および基礎データの分析を通じて調査対象地域の概要を把握すること、③調査対象に適切な方法論を組み合わせることが求められる。	2~4			*		◎	○
41276	地域調査入門演習2	地域調査の基礎的な理論と方法を身につけること。具体的には①調査対象を決定すること、②調査対象先への調査の依頼と調査のアンケートをとること、③調査日程の計画を立てることが求められる。	2~4			*		◎	○
41259	人文地理学実習1	①地域調査に際して適切な方法を決定することができるようにすること、②調査から得られたデータを分析するための基礎となる統計学の基礎について理解を深め、主な分析方法をマスターすること、③コンピュータの操作について習熟し、各種の作図ソフトの利用をマスターすること。	2~4	*					◎
41260	人文地理学実習2	①調査の設計方法を理解し、仮説を立て方や調査やサンプリング方法、調査票の設計方法やインタビューの方法、フィールドノートを取り方、調査後のデータ整理の方法について理解すること、②コンピュータの操作について習熟し、各種の作図ソフトの利用をマスターすること。	2~4		*				◎
41261	自然地理学実習1	自然地理学・自然環境計測に関する諸技術を取得する(地形図の理解と地形	2~4			*			◎
41262	自然地理学実習2	自然地理学・自然環境計測に関する諸技術を取得する(空中写真および気象図の判読、現地実習)。	2~4				*		◎
21104	哲学概論A	現代哲学の諸問題をその基礎概念も含めて検討し、現代哲学の発想と主張を理解する。	1~4	*				◎	
41348	哲学概論B	現代哲学の諸問題をその基礎概念も含めて検討し、現代哲学の発想と主張を理解する。	1~4			(*)		◎	
41349	人間学概説A	・人間の可能性、柔軟性、後天性を、人間の本来として理解する。	1~4		*			○	
41350	人間学概説B	・人間の可能性、柔軟性、後天性を、人間の本来として理解する。	1~4		*			○	
41302	西洋古代中世思想史A	西洋古代・中世の哲学史を学び、哲学思想の発展・継承を理解する。	2~4			(*)		◎	
41303	西洋古代中世思想史B	西洋古代・中世の哲学史を学び、哲学思想の発展・継承を理解する。	2~4				(*)	◎	
41304	西洋近世思想史A	西洋近世の哲学史を学び、哲学思想の発展・継承を理解する。	1~4	(*)				◎	
41305	西洋近世思想史B	西洋近世の哲学史を学び、哲学思想の発展・継承を理解する。	1~4		(*)			○	
41306	西洋倫理思想史A	倫理学の歴史(特に古代・中世の歴史)を学び、哲学的諸問題の史的展開や哲学者相互の影響関係を学ぶ。	2~4			(*)		◎	
41307	西洋倫理思想史B	倫理学の歴史(特に近現代の歴史)を学び、哲学的諸問題の史的展開や哲学者相互の影響関係を学ぶ。	2~4				(*)	○	
41351	現代哲学	現代の哲学的論争における特定のテーマについて、論点と議論を体系的に理解した上で、自分の立場を明らかにする。	2~4		*			○	○
41312	応用倫理学	道徳倫理について、その基本的な主張や規範倫理との相違点を学ぶ。	2~4	(*)				◎	○
41352	西洋古代中世哲学特講講義	古代・中世倫理思想の特定の問題について、その特徴や影響関係を理解する。	2~4			(*)		○	○
41353	近現代哲学特講講義	現代の哲学者の思想についてその独自性や影響関係を理解する。	2~4		*			◎	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	現代社会・人間学プログラム

<p>学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)</p> <p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすべての能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教養と課題発見能力 人間性と社会性に基づく豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(※KUGS1.5に対応) 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できることと、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(※KUGS1.2.5に対応) 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文脈、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(※KUGS3に対応) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(※KUGS4に対応) 	<p>プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)</p> <p>現代社会・人間学プログラムでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文科学の成果を学び、専門とする現代社会・人間学プログラムの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文科学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような現代社会・人間学プログラムの学習成果を上げた者とする。</p>
---	--

<p>学類・プログラムのOP(カリキュラム編成方針)</p> <p>【学類のOP】 DP1にかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。 1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したOS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またOS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(※DP1) 2. 1年次より人間社会学域(OS科目)と人文学部科目を履修し、前期で大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概説、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文学の基礎研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修得し、人間社会学域および人文学類の専門教育における基礎的教養を身につける。(※DP1.2) 3. 英語については、1年次でのOS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次でOS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(※DP4) 4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実務科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門知識の習得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(※DP4.4) 5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の展開に加えて批評・異論に耳を向けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。 【プログラムのOP】 1年次には、現代社会・人間学プログラムを構成する4つの専門分野における基礎科目である「哲学概論A・B」「社会学概論1・2」「地域調査入門演習1・2」「文化人類学演習A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基礎的な基礎知識を習得するための「人間学基礎演習A・B」や「社会学基礎1・2」「地域調査入門演習1・2」「文化人類学演習A・B」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するためにプログラム共通科目である「現代社会・人間学実習1～4」(専門分野によってはV・VI)を履修し、自らの関心に基づいた専門分野のより実践的な研究方法を学ぶ。4年次には、「卒業論文演習A～D」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめ、これに加え、4年間を通して人文社会科学の諸領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学び、より総合的・学際的な視野を身につける。</p>	<p>プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)</p> <p>現代社会・人間学プログラムから履修を想定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を得ることができる。 既得の資料や文献の批判的検討を通して、独自の分析視点を構築することができる。 現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献選読し、適切な分析を行うことができる。 研究対象に応じて、質的・計量的な分析方法を選択し、適切な分析を行うことができる。 研究成果について、口頭や文章などで、論理的に分かりやすく報告することができる。 専門分野の知識の集積に触れ、事業に対する多様な考え方を知らるとともに、人文学に関わる複眼的な見方を養える。</p>
--	--

プログラムのカリキュラム									
番 号	科 目 名	履 修 の 学 生 年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4			
41317	古代中世倫理思想特殊講義	西洋古代・中世の倫理思想に関する特定の問題について現代の問題への適用可能性も視野に入れた深く理解する。							◎
41354	近現代倫理思想特殊講義	現代の倫理思想の特定の問題について、その特質や影響関係を理解する。		*					◎
41355	人間学基礎講義A	哲学的人間学に関する基礎知識を学び、哲学の問題に独自の視点や解釈する力を身につける。						◎	
41356	人間学基礎講義B	哲学的人間学に関する基礎知識を学び、哲学の問題に独自の視点や解釈する力を身につける。						◎	
41357	人間学特殊講義A	哲学的人間学に関する発展的知識を学び、哲学の問題に独自の視点や解釈する力を身につける。		*				◎	
41358	人間学特殊講義B	哲学的人間学に関する発展的知識を学び、哲学の問題に独自の視点や解釈する力を身につける。			*			◎	
41359	西洋古代中世哲学基礎演習A	古代・中世の哲学者の著書を原典で読むことにより、哲学的思考力や読解力を身につける。						◎	
41360	西洋古代中世哲学基礎演習B	古代・中世の哲学者の著書を原典で読むことにより、哲学的思考力や読解力を身につける。						◎	
41361	西洋古代中世哲学演習A	古代・中世の哲学者の著書を原典で読むことにより、哲学的思考力や読解力を身につける。						◎	
41362	西洋古代中世哲学演習B	古代・中世の哲学者の著書を原典で読むことにより、哲学的思考力や読解力を身につける。						◎	
41363	西洋古代中世哲学研究演習A	古代・中世の哲学者の著書を原典で読むことにより、哲学的思考力や読解力を身につける。						◎	
41364	西洋古代中世哲学研究演習B	古代・中世の哲学者の著書を原典で読むことにより、哲学的思考力や読解力を身につける。						◎	
41365	近現代哲学基礎演習	西洋近世の哲学者の著書を原典で読むことにより、哲学的思考力や読解力を身につける。						◎	
41366	近現代哲学演習	西洋近世の哲学者の著書を原典で読むことにより、哲学的思考力や読解力を身につける。						◎	
41367	近現代哲学研究演習	西洋近世の哲学者の著書を原典で読むことにより、哲学的思考力や読解力を身につける。						◎	
41368	倫理思想基礎演習A	倫理に関する基礎的な知識・考え方を、原典を読解することで身につける。						◎	
41369	倫理思想基礎演習B	倫理に関する基礎的な知識・考え方を、原典を読解することで身につける。						◎	
41370	倫理思想演習A	倫理に関する一般的な知識・考え方を、原典を読解することで身につける。						◎	
41371	倫理思想演習B	倫理に関する一般的な知識・考え方を、原典を読解することで身につける。						◎	
41372	倫理思想研究演習A	倫理に関する発展的な知識・考え方を、原典を読解することで身につける。						◎	
41373	倫理思想研究演習B	倫理に関する発展的な知識・考え方を、原典を読解することで身につける。						◎	
41374	応用倫理学基礎演習A	応用倫理学に関する文献の読解を通して、応用倫理の基礎概念を学び、倫理的思考とはいかなるものかを理解する。						◎	
41375	応用倫理学基礎演習B	応用倫理学に関する文献の読解を通して、応用倫理の基礎概念を学び、倫理的思考とはいかなるものかを理解する。						◎	
41380	人間学基礎演習A	哲学的人間学の基礎を学び、その特質を理解する。						◎	
41381	人間学基礎演習B	哲学的人間学の基礎を学び、その特質を理解する。						◎	
41382	人間学演習A	哲学的人間学を、原典読解を通して学び、その特質を理解する。						◎	
41383	人間学演習B	哲学的人間学を、原典読解を通して学び、その特質を理解する。						◎	
41384	人間学研究演習A	哲学的人間学を哲学対話を通して学び、他者の意見を受け止め、自ら深く考える力を身につける。						◎	
41385	人間学研究演習B	哲学的人間学を哲学対話を通して学び、他者の意見を受け止め、自ら深く考える力を身につける。						◎	
41891	文化人類学概論A	文化人類学の基本的な考え方としての見方を学び、自分ごととする文化・異文化の理解の基礎作りを						◎	
41892	文化人類学概論B	文化人類学の基本的な考え方としての見方を学び、自分ごととする文化・異文化の理解の基礎作りを						◎	
41648	比較民族誌	特定のテーマと対象をとりあげながら、文化人類学的な観点から、その概念および実態を理解する。						◎	
41649	文化人類学講義	特定のテーマと対象をとりあげながら、文化人類学的な観点から、その概念および実態を理解する。						◎	
41490	文化人類学演習A	文化人類学・日本民俗学分野の論文や報告書を読み、内容を要約して発表し、議論することを通して、文化人類学的なものを見方を身につける。						◎	
41491	文化人類学演習B	文化人類学・日本民俗学分野の論文や報告書を読み、内容を要約して発表し、議論することを通して、文化人類学的なものを見方を身につける。						◎	
41179	現代社会・人間学実習A	現代社会・人間学の諸分野を専門的に学ぶための実践的な知識やスキルを身につける。(1) 総合的な社会認識と人間理解に基づく研究課題の設定。						◎	
41180	現代社会・人間学実習B	現代社会・人間学の諸分野を専門的に学ぶための実践的な知識やスキルを身につける。(2) 研究課題についての関連文献のサーベイと読解能力の向上。						◎	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	現代社会・人間学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教養と課題発見能力 人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(※KUGS1.5に対応) 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(※KUGS1.2.5に対応) 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(※KUGS3に対応) 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(※KUGS4に対応) 	<p>現代社会・人間学プログラムでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文学の成果を学び、専門とする現代社会・人間学プログラムの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げられるために、以下のような現代社会・人間学プログラムの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのOP(カリキュラム編成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のOP】 DP1にかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。 1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目と導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(※DP1) 2. 1年次より人間社会学域(GS科目)と人文学専修科目(必修)を履修し、前期では哲学・学問論、ジェンダー論、文化概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文学、社会科学の基本的問題や方法論を、後期では人文学の基礎研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修得し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(※DP1.2) 3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえ2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(※DP4) 4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実務科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めるとして、専門知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(※DP4.4) 5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所収の説明に加えて批評・史料・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。 【プログラムのOP】 1年次には、現代社会・人間学プログラムを構成する4つの専門分野における基礎科目である「哲学概論A・B」「社会学概論1・2」「地域調査入門演習1・2」「文化人類学演習A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基礎的な基礎知識を習得するための「人間学基礎演習A・B」や「社会学基礎1・2」「地域調査入門演習1・2」「文化人類学演習A・B」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するためにプログラム共通科目である「現代社会・人間学実習1～D」「専門分野1～D」を履修し、自らの関心に基づいた専門分野のより実践的な研究方法を学ぶ。4年次には、「卒業論文演習A～D」での指導を受け、自分の研究を卒業論文にまとめる。これに加え、4年間を通して人文学の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学び、より総合的・学際的な視野を身に付ける。</p>	<p>現代社会・人間学プログラムは、自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。既得の資料や文献の批判的検討を通じて、独自の分析視点を構築できる。現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献読解を通じて的確にアプローチし、結論を導くことができる。研究対象に応じて、質的・計量的な分析方法を選択し、適切な分析をおこなうことができる。研究成果について、口頭や文章などで、論理的に分かりやすく報告することができる。専門分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を養える。</p>

プログラムのカリキュラム									
番 号	科 目 名	履 修 の 学 生	学 年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4		
41181	現代社会・人間学実習C	現代社会・人間学の諸分野を専門的に学ぶための高度的な知識やスキルを身につける。(3)研究課題にアプローチするための適切な方法論の構築と分析能力の獲得	3~4			*			○
41182	現代社会・人間学実習D	現代社会・人間学の諸分野を専門的に学ぶための高度的な知識やスキルを身につける。(4)考察や分析の結果に基づいた結論の導出	3~4				*		○
41183	現代社会・人間学実習E	社会調査・地域調査・民族誌調査のいずれかについて、サーベイやフィールドワークの方法を実践的に	3~4		*				○
41184	現代社会・人間学実習F	中規模な社会調査を実施し、調査チームの一員として作業ができる能力を獲得し、経験を積む。 調査票の作成、データの取り扱いや、調査対象者などの外部の人々との接し方について、高い専門的なセンスを身につける。	3~4		*			○	○
31005	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*				○	○
31006	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定の仕方、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。	4		*			○	○
31007	卒業論文演習C	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・具体的な研究課題と研究計画を設定し、これを実行するために調査・資料収集・文献読解を行い、関連する技法、考え方を身につける。	4			*		○	○
31008	卒業論文演習D	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・調査・資料収集・文献読解を通じて得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるように	4				*	○	○
31003	卒業論文	・学術論文の著作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学の学問において要求される論理性や科学性の真、水準を理解し、それを果たすために必要な論述の条件について知る。	4			*	*	○	○
11057	人文学序説A	・人文学における学問の方法を学ぶとともに、主修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*					○
11058	人文学序説B	・人文学における学問の方法を学ぶとともに、主修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*				○
11059	人文学序説C	・人文学における学問の方法を学ぶとともに、主修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1			*			○
11060	人文学序説D	・人文学における学問の方法を学ぶとともに、主修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト(文庫)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1				*		○
11063	現代社会・人間学入門	・グローバル化のプロセスがもつ意味を理解する。 ・グローバル化の影響を理解する。 ・人文社会科学の諸分野の学問的方法や固有の領域について理解する。	1~4		*				○
11064	哲学の起源	・西洋哲学・倫理学の起源を歴史的に学び、その特質を理解する。	1~4					*	○
11065	社会情報学A	・人間行動や社会集団の進化を、社会情報という視点によって把握する方法を学ぶ。 ・具体的な社会変動のプロセスやメカニズムを分析的に理解する。	1~4		*				○
11066	社会情報学B	・人間行動や社会集団の進化を、社会情報という視点によって把握する方法を理解する。 ・具体的な社会変動のプロセスやメカニズムを多面的に考察できるようにする。	1~4			*			○
11067	ジェンダーと社会A	・現代社会におけるジェンダー概念の意義と関連する諸課題について学ぶ。 ・ジェンダーの視点から諸課題の構造や課題解決のアプローチについて考察できるようにする。	1~4			*			○
11068	ジェンダーと社会B	・多様性と関連する諸課題について学ぶ。 ・ダイバーシティとインクルージョン(社会的包摂)の視点から分析・課題解決の方法について理解する。 ・感覚知覚に関する諸現象や基礎知識を学び、その仕組みと心理過程における役割を理解する。	1~4				*		○
42621	知覚・認知心理学A	・感覚知覚に関する諸現象や基礎知識を学び、その仕組みと心理過程における役割を理解する。	2~4						○
42622	知覚・認知心理学B	・認知に関する諸現象や基礎知識を学び、認知過程と心理過程の特性を理解する。	2~4						○
42623	学習・言語心理学A	・学習心理学の基本的な現象、研究法、および説明理論について基礎知識を習得し、授業場面に活用できるようにする。	2~4						○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	現代社会・人間学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	プログラムのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士(文学)の学位を授与する。</p> <p>1. 豊かな教養と課題発見能力 人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。(※KUGS1.5に対応)</p> <p>2. 社会的応用性を備えた専門性 各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的な解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。(※KUGS1.2.5に対応)</p> <p>3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力 多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。(※KUGS3に対応)</p> <p>4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。(※KUGS4に対応)</p>	<p>現代社会・人間学プログラムでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする現代社会・人間学プログラムの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような現代社会・人間学プログラムの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・プログラムのOP(カリキュラム編成方針)	プログラムの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のOP】 DP1にかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <p>1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目(英語)のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。(※DP1)</p> <p>2. 1年次より人間社会学域(GS科目)および人文学基礎科目を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概説、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究方法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く修得し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基礎的教養を身につける。(※DP1.2)</p> <p>3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。(※DP4)</p> <p>4. 専門科目は、講義科目と演習・実習・実験科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書(レポート)作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門知識の獲得に加え、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。(※DP3.4)</p> <p>5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から年次まで習得してきた基礎的教養と専門教育における学習成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明確かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・史料・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。</p> <p>【プログラムのOP】 1年次には、現代社会・人間学プログラムを構成する4つの専門分野における概論科目である「哲学概論A・B」「社会学概論1・2」「地理学概論A・B」「文化人類学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本概念や基礎技術を習得するための「人間学基礎演習A・B」「社会学基礎1・2」「地域調査入門演習1・2」「文化人類学演習A・B」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するためにプログラム共通科目である「現代社会・人間学実習1～D」「専門分野1～D」を履修し、自らの関心を持った専門分野のより実践的な研究方法を学ぶ。4年次には、「卒業論文演習A～D」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめ、これに加え、4年間を通して人文社会科学の諸領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学び、より総合的・学際的な視野を身に付ける。</p>	<p>現代社会・人間学プログラムから課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて、独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献レビューなどを用いた多面的な分析を行うことができる。</p> <p>研究対象に応じて、質的・計量的な分析方法を選択し、適切な分析を行うことができる。</p> <p>研究成果について、口頭や文章などで、論理的に分かりやすく報告することができる。</p> <p>学問分野の知の集積に触れ、事業に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に關わる複眼的な見方を養育する。</p>

プログラムのカリキュラム									
番 号 目	科 目 名 目	履 修 の 学 生 数	学 年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4		
42624	学習・言語心理学B		2-4						○
42625	感情・人格心理学A		2-4						○
42626	感情・人格心理学B		2-4						○
41475	古代文明論		2年		*				○
11069	北陸の考古学		2年		*				○
11070	宗教芸術論		2年		*				○
11071	イメージを読み解く		2年	*					○
11072	グローバルヒストリー		2	*					○
11078	歴史学と現在1		1						○
11079	歴史学と現在2		1						○
41975	日本語学講義1		2,3,4	(*)	(*)	*	(*)		
11073	日本の物語と語り物		2,3,4	(*)	(*)	*	(*)		○
11074	日本文学の近代		2,3,4	*	(*)	(*)	(*)		○
11075	日本文学とメディア		2,3,4			*			○
11076	中国の言語文化A		2			*			○
11077	中国の言語文化B		2				*		○
21401	言語研究入門		2~4	*					○
21402	文学研究入門		2~4		*				○
21416	比較文学入門		2~4			*			○
21417	言語認知科学入門		2~4			*			○